

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700117		
法人名	社会福祉法人 光輪会		
事業所名	グループホーム 恵のいえ		
所在地	福岡県みやま市高田町濃施北501-3 (電話) 0944-32-9735		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 30 日	評価結果確定日	令和 6 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

みやま市高田町の中心部にあり、最寄りの駅からも近く交通の便がいいところにある。協力病院が側にあり、主治医、看護師との24時間連絡体制を確保しており、利用者の体調の変化に対応・支援できる体制を整えている。また、認知症の進行防止の為にスリーAを取り入れ、脳活性化リハビリに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 6 年 10 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

静かな住宅地にあり、洋風な外観で別荘を思わせる建物である。ロジ風の吹き抜けの天井には、ファンが静かに回り、ホールや居室の扉には花模様のステンドグラスを使用しており、利用者は落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる。グループの病院が隣接しており、重度化した利用者の受け入れや災害時の避難所として連携している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、法人の基本理念と6つの心を唱和している。職員ミーティングの際に話し合う機会を設けている。	事業所の理念と6つの心を朝の申し送り時に唱和し、名札にも携帯しており、常に意識して支援するようにしている。明るく、頭を使って、あきらめない認知症進行防止のスリーAを取り入れ職員の言葉かけなど理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に事業所として加入している。小学校より訪問・交流要請があったが、コロナ禍で実現できなかった。隣家に利用者と回覧板を持って行ったり、近所の方から野菜やお花を頂いたりしている。	自治会に加入しており、川掃除等に参加したり、地域の小学校へ認知症サポーターとしてオレンジ教室にボランティアで参加したりしている。渡瀬祇園の時は山車が来て、利用者はベランダから楽しんだり、隣近所の方から花や季節の野菜のおすそ分けもあるなど、地域と交流をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生向けの認知症サポーター養成講座「オレンジ教室」にキャラバンメイトとして参加し、認知症の人への理解ができるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、地域住民代表、利用者家族、行政担当者を交えて、利用者の状況、行事等の報告、質疑応答を行っている。会議内での意見を運営に反映している。	運営推進会議を2か月に1回開催し、家族や地域住民代表、行政職員が参加している。外部評価の説明やサービスの状況の報告を行ったり、災害時の避難計画の見直しなど参加者へ相談し、参加者より大雨の時の満潮時や干潮時の時間の把握などのアドバイスを受け運営の参考にしたり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で取り組み等報告している。加算算定時やケアプランチェック時等、不明な点について担当者から説明・助言を受けたりしている。空き状況も訪問時に伝えている。	市役所や地域包括支援センターには日頃からこまめに訪問したり、電話で運営の相談や空き状況の報告や広報誌を持参したりしている。行政からオレンジ教室の参加依頼があり、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回、身体拘束委員会の開催と年2回の研修を実施している。玄関にドアベルをつけているが、昼間は施錠していない。不穏時は、玄関の鍵のみ施錠する場合があるが、家族の同意を得ている。	玄関は施錠をせずチャイムやセンサーを設置している。職員は利用者の外出傾向を把握し付き添い等を行っている。職員は身体拘束に関する法人内研修へ職員が参加し、動画や書面で他の職員に伝達研修を行い職員全員の意識の向上に努めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修会、施設内でも研修会を行い周知はしている。虐待発見のチェックリストを使う。入浴時には皮膚観察を行い随時報告を受け、日頃から防止に努めている。指針も定めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修を行い理解を深めている。また、必要とされる方のために、パンフレットを準備している。	権利擁護の制度について、利用者と家族へ契約時と利用開始時にパンフレットを用いて説明している。職員は内部研修や伝達研修を行い、理解を深める機会を持っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、利用料、加算算定等の説明を行っている。質問や疑問がないかの聞き取りを行い、説明が必要であれば詳しくお答えしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ケアプラン更新時や面会の時など、ご家族より要望や苦情等を聞き、運営に反映するよう努めている。日々の生活の中でも利用者からの希望や意見を把握できるよう努めている。	利用者の担当職員がモニタリングの時や、心配な事がある時など居室で話しやすい雰囲気を作ったり、居室の片づけをしながら困ったことがないかなど声掛けを行っている。外食の要望がある際は、誕生会の食事を工夫する等、願いを実現してサービスの向上につなげている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や毎月のミーティングにて意見や提案を聞く機会を設けている。必要であれば改善につなげている。	代表者や管理者はミーティング時や申し送り、業務中に職員から意見や提案を聴く機会を積極的に設けている、排泄ケアや自立の利用者への対応など、多面的な視点で職員は意見や提案を出しており、業務や行事などの運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、勤務実績、能力などを精査・評価を行い、賞与に反映させることとしている。職員が各自で目標を設定し、その評価を上げるための助言、サポートを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については、公正に試験を行っており、性別や年齢等を理由に不採用とはならない。また、職員個々の能力が発揮できるような外部研修・内部研修を行い資質向上に努めている。	職員採用選考では、性別・年齢等を排除することなく、誰もが安心して働くことができるよう、シフトの希望を考慮した出勤表を作成し、有給も取りやすいよう環境を整えている。退職後の職員には復帰プログラムを基に、体調に合わせた勤務ができるような支援を行っている。職員全員が能力を発揮し生き生きと働ける職場環境になるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内での研修会を行い、人権について学ぶ機会を設けている。	職員は高齢者の人権について内部研修を行い、学び、支援につなげており、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせた外部研修や施設内での研修に参加してもらっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、他事業所職員と情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族・利用者を含め、見学と面談を行っている。職員が困りごとや要望がないか聞き取りを行い、コミュニケーションを取りながら良好な関係が築けるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時や面談時に、家族の話をしっかり聞き話し合い、提案、助言を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話をすることで、ニーズや必要なサービスを把握するよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることは、職員と一緒に見守りながら手伝ってもらっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に最近の様子を伝えるようにしており、情報の共有に努めている。病院受診や外出は家族にお願いすることも多い。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真を飾ったり、面会や電話の取り次ぎ、手紙の代筆など行い、関係作りに努めている。	職員は利用者の馴染みの人や場所について利用者から聴取しており、行事で外出した時に住まれていたところを通ったり、馴染みの地域の話を利用者から聞いて関係が途切れないように働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は情報を共有し、利用者同士の関係性を把握するよう努めている。配席の工夫や活動を通して、話がしやすい環境作りに努め、馴染みの関係が作れるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の関係者へ今までの暮らしが継続できるよう情報提供している。同法人の施設へ入所された際には、面会に行き職員に経過を聞いている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族と定期的に面談を行い、希望・意向の把握に努めている。本人からの把握ができない時は、家族の話や職員と話し合いながら取り組んでいる	食事を拒まれても、時間を置いて声掛けしたり、意思疎通が困難な利用者には、利用者の表情やしぐさを読みとったりして、利用者の思いを尊重した支援をしている。また、家族から聴き取り、趣味などの話題を提供して会話が弾むようにするなど、職員は日々の関わりの中で、意向の把握に努め、関係者から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族・利用者に聞き取りを行っている。また、担当ケアマネージャーからも情報提供してもらい、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後の3日間、24時間生活シートを作成し、できること、支援が必要なことを見極めている。日々、生活状況を把握し情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、又は6ヶ月に1度計画を見直している。家族や本人の意見を聞き、介護計画を作成している。毎月、モニタリングも行っている。	管理者やケアマネージャー、担当スタッフでケース会議を開催し、介護計画原案を作成し、その後家族と共に担当者会議を開催し同意を得て介護計画を作成している。6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトを使い、食事・排泄・入浴などの項目、生活の様子等は画像を取り込み記録している。情報の共有、評価、計画の見直し等に活用できている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者のみ訪問理容サービスを利用されている。家族が対応できない時の病院受診の付き添いや日用品の購入など、職員が代行することもある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉用具事業所より靴の購入のため訪問してもらい提案・助言を受けたり、訪問理容を利用されたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、家族の意向を聞き、かかりつけ医を決めている。受診には家族が付き添い、経過の把握をしている。	入居時に、今までのかかりつけ医の受診を継続するか、系列の医療機関の訪問診療による受診するか、利用者と家族の意向を確認し対応している。 外来通院時は付き添いの家族に、血圧などのデータを書面で渡して連携している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化等、看護職員に報告、情報共有を行っている。訪問看護ステーションとも連携が取れており、助言してもらっている。 夜間帯でも訪問看護と連絡が取れる体制が整っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行っている。地域連携室の職員と連絡を取り合い、病状や経過の聞き取りを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応の指針を説明している。また、協力病院や関連施設の特別養護老人ホーム等の協力を得ながらチームで対応できるように努めている。	事業所は入居前に重度化や終末期を迎えた際について、利用者と家族に事業所でできることを説明し、必要に応じて病院や他施設での支援について情報提供している。状態悪化したから退去するというわけではなく、入院・入所先についても家族と一緒に考える事ができるように支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを整備しており、さらに実践できるように研修を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施。避難の方法・連絡方法を職員間で共有している。	防災マニュアルを作成しており、年2回、避難訓練を実施している。うち1回は夜間を想定した訓練をしており、消防署へ報告している。避難訓練を実施する際に、地域住民に声掛けは行っていない。 非常用の食糧・飲料水・備品・寒さをしのぐ毛布等は、一覧を作成し、事業所内で管理されている。	非常時には地域住民の協力が不可欠なため、避難訓練を実施する際は、地域住民への呼びかけを行ってほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する研修を実施し、丁寧な言葉で話すことを心がけている。	職員は利用者の誇りやプライバシーに配慮した声掛けや介護を心がけている。馴れ合いから配慮が欠けた時には、管理者が職員に伝えている。居室に利用者名を掲示することが必要な時には、家族の同意を得ている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で希望を聞いたり、表情で読み取ったりし、利用者の思いや選択ができるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が思いのまま生活できるよう支援している。食事や体操等の時間はおおそ決めてはいるが、利用者の希望を聞き対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着に着替える時は、自分で選んでもらっている。外出時にはお化粧をされたり、訪問理容で散髪されたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、事前に好きなメニューを本人に聞き取り、提供、ケーキでお祝いしている。毎日の食事は盛り付け、配膳、片付けなど一緒に行っている。	職員と利用者はその能力に応じて、一緒に食事の準備・片づけを行っている。音楽が流れ、別荘の雰囲気とともにレストランで食事をしているように感じられ、楽しむことができる。 誕生日には、その利用者のリクエストに応えたメニューを全利用者に提供し、お祝いしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士が献立を作成し、バランスの取れた食事を提供している。水分量・摂取量なども記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしてもらっている。介助が必要な利用者には、本人が磨いた後に再度磨くようにしている。義歯を洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を作成、排泄パターンを把握し、利用者の身体状況に応じた介助を行っている。	I C Tを活用して排泄記録をとり、一人ひとりのパターンを把握し、トイレへ誘導している。訪問看護師と協力してマッサージを行うことで、お腹の調子を整え、オムツ減らしや失禁減少などの排泄の自立支援に積極的に取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所前の排便間隔を家族に聞き取りしている。排便チェック表にて毎日確認し、腹部マッサージや体操を取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回、入浴を行っている。本人の体調や意向に合わせ、無理のない範囲で入浴してもらっている。拒否がある利用者には毎日声かけし、工夫している。	月曜から土曜の午後が入浴時間となっているが、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応している。週に3回を目安に支援しているが、入浴を拒む利用者には、タイミングをずらしたり、声かけの仕方を変えたり、日を変更するなどして対応を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら休んでもらったり、好きな時にリビングや居室で休んでもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイルし、確認しながら配薬、ダブルチェック行っている。投薬時と同様、ダブルチェックで誤薬防止に努めている。自分で服薬できない方のみ介助している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前後に確認し、できる限り入所前の生活習慣を、継続できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回覧板を一緒に持って行ったり、近隣を散歩されている。また、それぞれの家族と美容室やドライブに出かけたりされている。同法人の施設へ外出する機会を設けている。	利用者の希望にあわせて屋外を散歩したり、町内会の回覧板を届けるために外出している。感染症拡大防止のため集団での外出は制限しているが、家族と協力しながら外出や帰省ができるように支援している。法人内の病院・施設で行われる行事に参加するためバスを貸し切って出かける等の支援も行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で現金を持ち、管理されている利用者もいる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出があったら対応をしている。携帯を持っておられるが、電話のかけ方が分からないときは支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の扉にはステンドグラスの花があしらわれ、花の名前で居室を覚えられている。トイレ等、貼り紙をし場所が分かるようにしている。季節を感じられるように、花や創作物を飾っている。	建物の中央に位置する居間・食堂は、ゆとりある広さが確保され、吹き抜けの天井から穏やかな日差しが差し込み、木の温もりを感じられる床や家具等、別荘のような空間に造られている。利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、くつろげる空間になっており、テレビを観たり談笑されたりしている。テーブル席では新聞や雑誌を読んだりして、それぞれに過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族と一緒に荷物の整理や配置を考えている。思い出の写真や、観葉植物などをレイアウトして、本人が居心地良く、安らげる空間になるように努めている。	居室の扉はそれぞれ別の花をモチーフに大きなステンドグラスがはめ込まれており、木目調の備え付けの家具と共に明るい部屋となっている。写真や自ら製作した作品が飾られており、居心地よく過ごせる工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下・トイレには手すり、玄関にはスロープを設置している。利用者の身体状況に合わせ、居室内の家具の配置も検討している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	☐	①ほぼ全ての家族と
			☐	②家族の2／3くらいと
			☐	③家族の1／3くらいと
			☐	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	☐	①ほぼ毎日のようにある
			☐	②数日に1回程度ある
			☐	③たまにある
			☐	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	①大いに増えている
			☐	②少しずつ増えている
			☐	③あまり増えていない
			☐	④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	☐	①ほぼ全ての職員が
			☐	②職員の2／3くらいが
			☐	③職員の1／3くらいが
			☐	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての利用者が
			☐	②利用者の2／3くらいが
			☐	③利用者の1／3くらいが
			☐	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての家族等が
			☐	②家族等の2／3くらいが
			☐	③家族等の1／3くらいが
			☐	④ほとんどいない